

島根県公立
小中学校
教頭会

会報

R5.3



島根県公立小中学校教頭会

会長 林 和博

(松江市立忌部小学校)

この一年を振り返って

今年度も働き方改革や情報化、感染症等への対応に追われる中ではありましたが、県内二百九十三名の会員の皆様のご協力のもと、工夫を重ねながら県教頭会の事業を進めることができましたこと、深く感謝いたします。特に、役員や理事、幹事や各部委員の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今年度は、オール島根の教頭会に向けて、「教頭としての資質の向上」、「持続可能な組織づくり」、「調査・要請活動の充実」を重点として活動しました。

教頭としての資質の向上
昨年七月に岩手県にてオンラインで開催された全国大会、十一月に鳥取県にてハイブリッドで開催

された中国大会にご参加ありがとうございました。多くの学校では教頭は一人職ですので、市郡や県の研修・情報交換にあわせて、このような全国・中国地区大会での研修も教頭の資質向上につながると思われます。オンラインで参加しやすい面もありました。今後とも積極的なご参加をお願いします。

十二月に開催された研究委員会(参集型・オンライン併用)にて、今年度の中国大会での二提言の発表・協議、来年度の六提言の取組状況の報告・意見交換があり、各市郡の研究内容の共有を図ることができました。

今年十一月には、中国大会が出雲市にて開催予定です。出雲市の教頭会を中心に実行委員会を組織

して準備が進められています。大会は、ハイブリッド型での開催を検討しています。

令和八年度以降の中国大会の第六分科会の扱いについては、中国地区教頭会(中公教)で検討中です。

持続可能な組織づくり

今年度の全国教頭会(全公教)・中公教の会議・研修会等は、基本的にオンラインで実施されました。県教頭会の理事会・事務局会・各委員会等については、参集型(オンライン併用)を基本とし、参加しやすいように、移動・開催時間の精選に努めました。

事務局体制について、今年度は分散化する業務や担当市郡について検討を進めていきました。今までは松江市の小・中学校が二年ごとに交代しながら受け持ってきた事務局業務の半分程度を来年度から他の市郡でも担っていただく予定としています。懸案だった事務局(教育会館内)のコピー機の更新も行いました。

今年度末にはホームページ(HP)をリニューアルする予定です。更新がしやすくなり、様々な情報を掲載して教頭会の活動の「見える化」を図ります。この会報も紙媒体での配布は取りやめ、

データ送信とHPへの掲載とします。(全公教のHPもご活用ください。研修大会、研究部長会・要請推進部長会、教頭会調査、機関誌等が掲載されています。)

各市郡の代表の皆様には、会議や研修会等で得られた情報を市郡の皆様と共有していただきますようお願いいたします。今後はHPの情報もご活用ください。

調査・要請活動の充実

全公教と連携した調査活動へのご協力ありがとうございました。調査結果・考察については、冊子にまとめてお届けします。十二月には県教育委員会との懇談会を開催し、この調査結果や要請委員会での協議をもとにした要請・意見交換を行いました。今後、県教頭会の要請内容については、県小学校長会・中学校長会の要望との調整を図っていきたいと思います。

今年度は、オール島根で支え合う教頭会をめざして、少しずつではありますがありますが教頭会の働き方改革も行ってきました。今後も「教頭会に入っていてよかった」と言っていただけのような教頭会を模索しながら活動していきたいと思えます。一年間、お世話になりました。ありがとうございました。

各市郡教頭会の活動状況

仁多郡

会長 飯國 秀忠

(奥出雲町立三沢小学校)

本教頭会は、奥出雲町内小学校十校、中学校二校で構成しています。令和七年度に横田地域、同八年度に仁多地域の小学校が、それぞれ一校ずつとなる統合が予定されています。そのような中、毎月、定例会議を開き、統合を見据えた内容も含む諸課題について情報交換やミニ研修を実施しています。

◇令和四年度のミニ研修

- ① 町教育長講話及び事業説明
- ② 働き方改革について
- ③ 事務共同実施について
- ④ ふるさと教育

「循環型農業遺産について」

- ⑤ 保護者と学校の間より関係づくり
- ⑥ 特別支援学級の教育課程

よりよい進路を見据えた学習

- ⑦ 人権教育

「学校と社会福祉の連携」

- ⑧ 「絆を育む集団作り・学級づくり」に関する意義と具体

- ⑨ 教頭職に期待すること

月担当がテーマ等を設定・計画して、一時間あまりの内容で実施して

います。担当者の持ち味で進めたり、教育センターの出前講座を活用したりして、毎回、有意義な学びや研鑽の場となっています。

◇働き方改革についての取組

仁多郡教頭会では、令和三年度の「本会研究大会(隠岐大会)」で研究発表(紙上発表)の機会を得たことに関連して「働き方改革」についての取組を継続して行っています。全職員へのアンケート、実践事例の提案や紹介、検証等、PDCAサイクルを進めながら、全員が無理なく持続可能な実践ができることを目指しています。三年目が終わろうとしています。三年目が終わろうとしています。三年目が終わろうとしています。三年目が終わろうとしています。三年目が終わろうとしています。

◇学校再編に向けて

小学校の統合が間近に迫ってきている中、新しい学校に円滑に移行できるよう、事務的・作業的な課題について各校が共有し整理して進めていく必要があります。このことについて、校長会や事務グループとも連携を取りながら進めているところです。四年後には、現十二校が、旧町単位の小中一校ずつの四校となり組織は大きく様変わりします。それまで、現状十二名の知恵や経験、持ち味を結集して、新しい学校へ引き継ぐものを作り上げていこうと思います。

浜田市

会長 山本 康治

(浜田市立長浜小学校)

◇浜田市教頭会の概要

浜田市教頭会は、小学校十六校、中学校九校、幼稚園三園の計二十五校、三園、二十八名で構成しています。本会では、研究部と研修部があり、それぞれの部に属した者が、活動内容を決めています。

◇研修部

研修部は、「教頭の業務充実に向けた企画・実施にあたる」部と「本会の研修の立案計画・実施にあたる」部に分けられています。今年度は各学期に講師を招いた研修を行いました。

①一学期は、浜田教育センターの指導主事に「令和の日本型学校教育(個別最適な学びと協働的な学び)の一体的な充実」と題し、今求められている力や令和の日本型学校教育、先進校の組織等について説明していただきました。その後、「個別最適な学び」を進めるために学校として取り組むべきことは何か、管理職として何から始めるかについて協議しました。

②二学期は、ユネスコ無形文化遺産に登録されている石州半紙について石州和紙会館で説明を受けたり、紙

漉き体験をさせていただいたりしました。浜田市の卒業証書は全て和紙でできています。学校によっては児童生徒が実際に紙漉きをして自分の証書を作成しています。身近に感じられる石州和紙の歴史や作り方を知る良い機会となりました。

◇研究部

研究部は、本会の研究活動を企画し、その推進にあたります。今年度は、来年度に開催される出雲大会に向けた発表の内容を具体化していき、本会では、学校図書館活用教育を推進するにあたり、学校として何を充実すべきか、管理職として何が必要であるかを検討しています。研究部で作成したアンケートを浜田市の教頭、司書教諭、学校司書に回答してもらいました。結果をもとに、浜田市教育委員会の指導主事に県の学校図書館活用教育の現状や内容等について講義していただき、具体的な取組について協議しました。今後、浜田市全体や各学校で学校図書館活用教育の充実をめざし実践していきます。

最後になりましたが、本会では、W I T H コロナの中で充実した教育活動が推進できるよう、今後も学校や子どもたちに還元できる研修や研究を継続して行っていききたいと思えます。

鹿足郡

会長 林 健志

(津和野町立日原中学校)

◇鹿足郡小中学校教頭会研修会の開催について

八月五日(金)に、津和野町立日原中学校を会場に、湘南学園学園長住田昌治氏をお迎えし、「元気が出る学校づくり」教頭つて楽しいですか?」をテーマに、教職員自らが仕事への自覚をもち、任せられた仕事に対して主体的に意思決定をして実践することが出来る組織づくりについて、研修会を行いました。当日は、記録的短時間大雨情報が出され対応に追われましたが、無事、開催することができました。

住田先生から、「すべての教職員間で学校教育目標を共有し、方向性をもつこと」、「教職員が主体的に力を発揮できる学校環境を整えること」、「教職員一人一人のよさや得意なことをしっかりと把握し、仕事を割り振ることに」についてお話を伺いました。そして、学校への適応を促すアドバイス支援と寄り添い支援とともに、自律自主を促すチャレンジ支援と気づき支援を行うことが大切であり、最終的には、「自分で育っていくようにすること」が理想であると話されました。

ました。教頭として、教職員の力を引き出す、教職員を動かすことのできる「サーバントリーダー」の極意を学ぶことができた研修会でした。ワークショップでは、参加者一人一人が、今後の学校運営において取り組む目標設定を行いました。

〈参加者から出た目標〉

- 話を聞く。あいさつ+アルファ
- 「いいねえ」。「どう。どんな感じ」のひと言を大切に。
- 子どもの成長を喜び合う。
- 教職員一人一人の頑張りを仲間と共有できる働きかけをする。
- 相手の思いを知るような、相手を認めるような声かけをする。
- 忙しがらない。閉じこもらない。

この日設定した目標は、教頭会研修のたびに、実践できているか、どんな成果が見られるようになったか、課題は何かについて確認を行っています。

研修の最後に、住田先生から山本五十六の、「やってみせ、言ってみせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」を紹介されました。

住田先生が提案されている「任せるマネジメント」により、教職員相互が認め、支え合うとともに、主体的に活動して成長することが出来る学校づくりを今後も進めていければと考えています。

全国大会(若手大会)に参加して

三原 雄治 (飯南町立頓原中学校)

今年度の大会もコロナの影響で結果的にオンラインがメインの大会となりました。全国統一研究主題のもと「自立・協働・創造」をキーワードに「郷土に愛情と誇りをもち、未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」というサブテーマを設定して開催されました。この二日間の大会の中で、心を動かされた記念講演とシンポジウムについて報告させていただきます。

記念講演は、地元盛岡市出身の映画監督・大友啓史氏(代表作「るるろに剣心」シリーズ)が「アドリブ力を育てる」という演題で講演されました。心に残ったのは、人それぞれの能力をどう引き出していくか

に関連して「俳優やスタッフを見ていて、『無茶振り』すると人は成長すると感じた。持てる力⑤の人に⑤の要求をすると成果は②③④になってしまう。しかし、持てる力⑤の人に⑤の要求をすると、すごく頑張っている⑩くらいの成果を出すことがある。一つの作品を創りあげるために、それぞれの能力をどう最大限に引き出していくか。そこが重要だ。一番ダ

メなのは、その人の力を決めつけることだ。ここまでしかできないと思うと、本当にそこまでしかやらない。」という話です。もう一つ心に残ったのは、「自分の頭で考えることをとにかく我慢してさせる。その時に突き放すのではなく、助けが必要な時とか、何か一言欲しがっている時とか、そのタイミングを間違わずに見てあげるといのが結構ポイントなのだ。『魔法の一言』と自分で言っているが、欲しい時にふっと一つの言葉をあげた時に俳優の演技が変わる瞬間がある。子供たちも多分一緒なんだろうと思う。」という話です。二つの話とも、子どもの力を伸ばすには、という視点で話されたと思います。このことは、教員の人材育成にもつながる話、第5B分科会にも関連する話だと思って聴かせていただきました。

シンポジウムは、東日本大震災後に始まった『いわての復興教育』のこれまでの成果と課題、そして、これから先のことについて熱く議論が交わされました。「震災を風化させてはならない。」「いきる』『かかわる』『そなえる』という三つの教育的価値を柱に今後も取り組まねばならない。」という強い思いが伝わってくるものでした。

中国大会(鳥取大会)に参加して

野田 孝秀 (出雲市立中部小学校)

令和四年十一月二十二日(火)に行われた中国地区公立学校教頭会研究会(鳥取大会)は、新型コロナウイルス感染症対策のために、鳥取県内の会員は参集し、県外会員はオンラインで参加する「ハイブリッド型」で行われました。

来年度の中国大会が、鳥根県出雲市で開催を予定されていて、オブザーバーという立場で実際に会場に行き、前日の打ち合わせ、当日の研究会に参加しました。全体会会場、分科会会場でのリハーサルの様子を見学したり、オンラインのシステムについて教えていただいたりしました。ハイブリッド型研究会ならではの準備の大きさを現地で実感することができました。

当日の基調提案では、副校長や教頭として、人権尊重の精神に徹し、子ども達の「未来を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育成するために、教育改革を推進していかなければならないことや、「予測不能な社会」において、「児童生徒の学

び方」や「教職員の働き方」を常にアップデートして日々の教育実践に臨むことを提案されました。

記念講演は、大阪市立大空小学校の初代校長の木村泰子さんが「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」という演題で行われました。学校の教育目的の最上位を「全ての子どもの学習権を保障する」として、学校運営に邁進してこられた話は、これからの学校での教育活動の推進に大変参考になるものでした。また、今後の教育において「正解のない問いを問いつける教育」の重要性にも改めて気づかされました。

午後の分科会は、第一分科会に参加しました。「教育課程に関する課題」がテーマで、地域の特色を活かした教育課程の編成を行い、実践していく中で、教頭としてどのように関わっていくべきか、その役割について学ぶことができました。地域の豊富な教育資源を活かして特色のある開かれた学校教育を推進するために、地域と学校をつなぐ役割が重要となってくることを再確認しました。来年度の出雲大会に向けて、大変収穫の多い研究会参加になりました。

中国大会(鳥取大会)に参加して

大床 敏之 (浜田市立雲雀丘小学校)

令和四年十一月二十二日(火)に行われた中国地区公立学校教頭会研究会(鳥取大会)は、鳥取県内会員のみの参集し、県外会員はオンライン参加というハイブリッド開催で行われました。初の試みということでしたが、今後の大会開催につながるものであったと感じました。

記念講演は、木村泰子先生による「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校に」へ今こそ新しい発想で進んだ。学校は「あるもの」ではなく、「つくるもの」であること、「みんなの学校」をつくることが出来なければ、不登校を生むというお話が心に残りました。

分科会では、第二分科会「子どもの発達に関する課題」に参加しました。

提言一では、学校・地域連携カリキュラムの作成を通しての取組が紹介されました。理念を共有しながら中学校区内で九年間のカリキュラムをデザインし、校内だけでなく学校外部にもよくわかるもの、学校の意図が伝わるものを作成しようとされ

たことや、職員だけでなく生徒像について生徒の意見を聴くなどみんなの意見を取り入れながら作成されていったことなどを発表されました。午前の記念講演につながる取組であると感じながら聴かせていただきました。また、目標を小学校一・二年、三・四年、五・六・中学一年、中学二・三年と発達段階や中一ギャップを意識して設定されたことなど大変参考になりました。

提言二では、小規模校の強みを活かした「子どもへのまなざしが重なり合う学校」を目指した取組が紹介されました。その中で学校司書が朝読書などの読書活動の他に教科の中や「るるぶ日野」と題した活動へのかかわりについて説明があり、浜田市教頭会の中で図書館教育についての研究を進めているところだったので参考になりました。

分科会を通して、指導助言の中でもありましたが、子どもの発達段階を踏まえながら関わっていくことが大切であり、子どもを取り巻く学校や地域が共通理解をして進めていくことの重要性をあらためて感じました。そして、その中で果たす教頭の役割について、とても参考になる学びの場となりました。

要請部より

要請部長 野島 博行

(松江市立竹矢小学校)

一 要請部活動状況

◇全国要請推進部長会

【期日】七月七日(木)

【会場】リモートによる参加

(松江市立竹矢小学校にて参加)

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、全国要請推進部長会はリモート開催となりました。教育研究者であり、合同会社ライフ&ワーク代表の妹尾昌俊氏より教員不足解消、働き方改革停滞の打開策に関わる講演をいただきました。また、午後の分科会協議では、学校の喫緊の課題について情報共有、対応協議を行いました。最も大きな課題は、各都道府県共通して「教員不足」であることが印象的でした。なお、全国公立学校教頭会の「令和四年度文教施策及び予算措置・文教関係立法等の要請」については、全公教ホームページに掲載してあります。ご覧ください。

◇第一回要請部正副部長会

【期日】六月二十日(月)

【会場】松江市立竹矢小学校

- 今年度の活動計画の作成・確認
- 各市郡教頭会宛てアンケートの作成と役割分担

◇第二回要請部正副部長会

【期日】八月十八日(木)

【会場】松江市立竹矢小学校

- 各市郡教頭会からのアンケートの取りまとめ
- 重点要望内容の検討
- 今年度の要望事項の原案作成と県教頭会要請委員会及び県教委との教育懇談会の準備・運営方法の確認

◇鳥根県教頭会要請委員会

【期日】十月二十一日(金)

【会場】サンラボームらくも

- 県教頭会「教育条件に関する要望書」の内容および、緊急性の順位について、市郡代表要請部員による協議

◇第三回要請部正副部長会

【期日】十二月六日(火)

【会場】松江市立八雲小学校

- 県への全要請中、優先順位上位のものについて最終協議
- 県教育委員会との教育懇談会の資料確認

◇県教育委員会との教育懇談会

【期日】十二月二十六日(月)

【会場】鳥根県教育会館

【出席者】鳥根県教育庁から三名

県教頭会から十名

【懇談会の内容】

- ・教職員の配置の改善
- ・再任用教職員の多様な雇用形態の実現及び待遇の改善
- ・初任者研修内容の精選と、初任者及び学校の負担軽減について
- ☆「教育条件に関する要望事項」を県教育委員会に提出しました。
- ☆懇談会の内容は、県教頭会ホームページに掲載しています。

二 活動を振り返って

県内の教頭会会員の皆様から「教育条件に関する要望」について、貴重なご意見をたくさんいただきました。それをもとに、「令和四年度要望事項」としてまとめ、十二月末に県教育委員会に提出

しました。県教育委員会からご参加いただいた皆様は、要望に真摯に向き合ってください、丁寧にご回答していただきましたことをご報告します。各市郡の要請委員の皆様には、市郡の要望事項集約に尽力いただきましたことを、心からお礼申しあげます。

新型コロナウイルス感染症は、今年五月には第五類とするとの見通しが示されました。やっと落ち着いた日常を取り戻せるもの期待する半面、長期間に学校が失ってしまったものをどのように取り戻すのか、または再構築するか、懇談会の場では、そのような学校現場のこれから先に待ち構える課題にも十分ご理解いただいたものと考えております。

今後も、県教育委員会との連携を強め、鳥根の学校教育の発展のために、本会の活動を充実させてまいりたいと存じます。



研究部より

研究部長 大坂 慎也

(松江市立島根小学校)

本年度も研究部の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」のもと、各大会がオンラインも取り入れ開催されました。

一 今年度の取組

◇第六十四回全国公立学校教頭会研究会 (岩手大会)

・期日 七月二十八日(木)
二十九日(金)

・オンライン参加 十八名

◇第四十二回中国地区公立学校教頭会研究会 (鳥取大会)

・期日 十一月二十二日(火)

・参加による参加 十名

・オンライン参加 一三六名

・本県の提言発表

【第二分科会】

教育環境整備に関する課題

提言者 福岡 亨 教頭

(安来市立赤江小学校)

教職員のICT活用能力向上と業務改善のための教頭の役割

【第四分科会】

組織・運営に関する課題

提言者 三宅 誠幸 教頭

(邑南町立石見中学校)

地域資源やICT機器等を活用した働き方改革の推進、教職員の負担を軽減し、子どもたちに効果的な教育活動を行うために、

◇島根県教頭会研究委員会

・期日 十二月八日(木)

・内容 全国研究部長会等報告

研究会発表割当

今後の研究会について

提言発表および協議

昨年に続き、半日開催とし、オンライン併用で開催しました。活動報告等につき、前述の鳥取大会の発表・協議と、次年度の島根大会で発表予定の提言について協議を行いました。特に次年度発表の六市郡の研究内容については、これまでの各市郡での取組についての発表をいただく等、研究部員の皆様にお力添えをいただきました。

二 来年度の取組

◇第四十三回中国地区公立学校教頭会研究会 (鳥根大会)

・期日 十一月十日(金)

・会場 出雲市民会館、

ニューウェルシティ出雲

◇第六十五回全国公立学校教頭会研究会 (石川大会)

・期日 八月三日(木)、四日(金)

・会場 ホテル金沢 他

皆様のご参加をお待ちしています。

調査部より

調査部長 小山 美子

(松江市立本庄小学校)

新型コロナウイルス感染症対策も四年目を迎えました。令和四年度は、WITTHコロナの考えのもと、子どもたちの学びのために奮闘した一年ではなかったかと思えます。そんなお忙しい中、今年度も皆様のご協力により、公立小中学校教頭会の実態調査報告書を発刊することができましたこと、厚くお礼申しあげます。

今年度は、緊急課題として「教員不足問題の実態」GIGAスクール構想への対応」という新たな質問項目も加わりました。多岐に渡る課題への対応のために、教頭の多忙化傾向は一層強まっています。今後も、負担軽減に向けた環境づくりへの継続的な取組が必要です。

ご回答いただいた調査結果は、今年度も県教頭会要請委員会等で報告・協議し、次年度の各方面への要請活動につなげてまいります。

今後も、的確な現状把握のため、調査にご協力をいただきますとともに、各市郡等で調査結果を有効に活用していただきますようお願いいたします。

事務局より

事務局長 平塚 靖男

(松江市立揖屋小学校)

本年度の本会の事業も、県内の教頭先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、各大会の開催方法に変化がみられました。オンライン配信による開催など新たな方法が試みられました。皆様方のご協力をいただき乗り切ることができました。今後とも本会活動へのご支援・ご協力をお願いします。

新年度準備の多忙期となります。皆様のご健勝をお祈りします。

島根県公立小中学校教頭会事務局長

松江市立揖屋小学校

〒699-0101 松江市東出雲町揖屋二二二―三

TEL (〇八五二) 五二二―二〇〇七 平塚 靖男

島根県公立小中学校教頭会事務局

〒690-0886 松江市母衣町五五

TEL FAX 〇八五二 二七―八六八〇 島根県教育会館内

事務局長 黒田 真喜子

(勤務日) 月(金) (勤務時間) 九時～十五時

ホームページアドレス

<https://simatou5.jp/>

E-mail

simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

